

第2章 業務の概要

1 動物愛護と適正飼養に係る普及啓発及び人材育成事業

(1) 県内の動物関係専門学校生等への研修

ア 動物関係専門学校生実習

動物関係の専門学校の学生等に関しては、センター業務、狂犬病予防法、動物の愛護及び管理に関する法律、動物由来感染症、犬のしつけ及び動物福祉等に関する講義を行い、同時に、将来動物関係の仕事に携わる中で、飼い主等に対する啓発をお願いした。

期 間	内容及び参加者
4月20日(月)	実習 専門学校九州スクールオブビジネス 学生 ペット学科 生徒52名
7月 8日(水)	実習 福岡ECO動物海洋専門学校 動物園・動物飼育専攻 44名
7月 9日(木)	実習 福岡ECO動物海洋専門学校 動物園・動物飼育専攻 42名
12月11日(金)	実習 専門学校九州スクールオブビジネス 学生 ペット学科 生徒39名

イ 動物愛護推進員、行政担当者、動物関係専門学校生及び中学生等への研修

センター業務、動物関係法令、犬や猫の健康管理法及び犬のしつけ方等に関する講習を行った。

(ア) 中学生実習

期 間	内容及び参加者
9月7日(月)～11日(金) 5日間	職場体験学習「ドリームステージ」 古賀市立古賀東中学校生徒 4名

(イ) その他

日 時	内容及び参加者
9月 9日(木)	視察研修 那珂川町役場職員 2名
9月17日(木)	視察研修 田川保健福祉事務所職員 1名 動物愛護推進員4名、福智町職員1名 赤村職員1名 その他1名 計8名

(2) 施設見学者への啓発

ア 施設見学の受入れ

一般の施設見学者に対して、センターの事業概要の説明、及び動物愛護に関する啓発を行った。

(ア) 受入状況

単位：人

講習会 見学者	動物 愛護団体	小中 学生	専門学校 高校生	行政関係 愛護推進員	一般来場者	合計
1 3 4	9	4	1 7 7	3 6	4 8 4	8 4 4

イ センターオープンデーの開催

(ア) 開催状況

	月日（曜日）	参加団体数	一般来場数	参加犬猫数	(登録)ボラン ティア数
春	5月24日（日）	12団体	112名	30頭	3名
秋	9月27日（日）	12団体	139名	68頭	13名

(イ) 場所 福岡県動物愛護センター

(ロ) 時間 10：00～16：00

(エ) 内容 春は「お家の中が一番幸せ」をテーマに猫の適正飼養について啓発を行った。

秋は「ペットの防災対策は大丈夫？」のテーマで防災講演会、災害救助犬の実演及び防災グッズの無償譲渡会等を行った。

ウ テレビ、広報等による啓発

(ア) 春のセンターオープンデー開催予定記事掲載

- a 西日本新聞（5月16日朝刊）
- b 毎日新聞（5月19日朝刊）
- c センターホームページ

(イ) 春のセンターオープンデー取材

- a 西日本新聞（5月25日朝刊）
- b TVQ（当日）

(ロ) 秋のセンターオープンデー開催予定記事掲載

- a 西日本新聞（9月25日朝刊）
- b サンデー宗像福津古賀新宮
- c センターホームページ

(エ) 飼い主のマナーを考えよう「飼い主のマナーアップ」

ふくおかインターネットテレビ（3月29日から掲載）

(3) 犬のしつけ方教室

犬の適正飼養や人と犬とのよりよい関係づくりを啓発し、模範飼育者及び模範犬の育成を図ることを目的として、犬の習性、行動や心理に関する情報を提供しながらしつけ方の指導を行う「犬のしつけ方教室(一般コース、子犬コース)」及び子犬コースに参加し、全レッスンを終了した飼い主と犬を対象としたフォローアップ講習会「ワンパク同窓会」を開催した。

ア (公財) 福岡県動物愛護センター主催

(ア)一般コース

a 開催状況

月日 (曜日)	受講者数	(登録) ボランティア	モデル犬
4月26日 (日)	27名	7名	13頭
6月28日 (日)	26名	8名	8頭
7月26日 (日)	台風のため中止		
8月23日 (日)	18名	7名	4頭
10月25日 (日)	申込み者なし		
11月22日 (日)	12名	4名	3頭
12月20日 (日)	28名		8頭
1月24日 (日)	降雪のため中止		
2月28日 (日)	5名	5名	
3月27日 (日)	10名	6名	
計	126名	37名	36頭

b 場所 福岡県動物愛護センター (大会議室)

c 時間 日曜日：13:00～15:30

d 対象 一般県民

e 内容

(a) 講義 センターの業務、しつけの必要性、犬の習性と性質、犬の社会化、不妊去勢手術、しつけの基本、良い遊びと良くない遊び、犬のことば、問題行動の背景と対処方、しつけグッズの紹介等

(b) モデル犬の実演 犬と飼い主の関係作りプログラム、オスワリ、フセ等

(イ) 子犬コース

a 開催状況

月日（曜日）	内容	受講者数	同伴犬	（登録）ボランティア
6月11日（木）	講義	7名		4名
6月18日（〃）	実技1	6名	6頭	6名
6月25日（〃）	実技2	8名	6頭	10名
9月10日（〃）	講義	10名		9名
9月17日（〃）	実技1	10名	5頭	8名
9月24日（〃）	実技2	9名	5頭	8名
11月12日（〃）	講義	2名		6名
11月19日（〃）	実技1	5名	4頭	8名
11月26日（〃）	実技2	4名	4頭	8名
3月10日（〃）	講義	10名		2名
3月17日（〃）	実技1	14名	7頭	8名
3月24日（〃）	実技2	10名	7頭	9名
合計		95名	44頭	86人

b 場所 福岡県動物愛護センター（大会議室）

c 時間 （講義）13:00～15:30 （実技）13:30分～15:30

d 対象 一般県民

e 内容

(a) 講義 センターの業務、犬との暮らしの基本、遺伝と環境、犬の学習方法、犬と飼い主の関係作りプログラム、犬のストレス等

(b) 実技 アイコンタクト、オスワリ、マテ、フセ、オイデ、ゲーム等

(ウ) ワンパク同窓会

a 開催状況

月日（曜日）	参加者数	同伴犬	（登録）ボランティア
4月22日（水）	27名	27頭	4名
11月5日（木）	36名	26頭	8名
合計	63名	53頭	12名

b 場所 福岡県動物愛護センター（駐車場及び大会議室）

c 時間 13時30分～16時00分

d 対象 犬のしつけ方教室子犬コースを修了した飼い主と愛犬

e 内容 飼い主のスキルアップ、モデル的飼い主の組織としての情報発信。
具体的には、近況報告、実技、ゲーム、ミニ講座等。

イ 保健福祉（環境）事務所または市町村等主催のしつけ方教室
主催者の依頼により、次のしつけ方教室へ職員を派遣した。

(ア) 春日市主催

- a 開催日時 1月29日（金）13：30～16：00
- b 開催場所 春日市まちづくり支援センターぶどうの庭
- c 受講者数 8組9名、動物愛護推進員1名、筑紫保健福祉環境事務所1名

(イ) イオン筑紫野店主催

- a 開催日時 9月30日（水）13：00～15：00
- b 開催場所 イオン筑紫野店
- c 受講者数 9組13名

(ウ) 筑紫野市主催

- a 開催日時 2月5日（金）13：30～15：30
- b 開催場所 筑紫野市勤労青少年ホーム
- c 受講者数 7名 筑紫保健福祉環境事務所1名

(4) 猫の適正飼養に関する普及啓発

「猫と幸せに暮らすための講座」

完全室内飼育、不妊去勢手術の実施等、適正な飼養方法を広く普及啓発することを目的に実施した。

ア（公財）福岡県動物愛護センター主催

(ア) 開催状況

月日（曜日）	5月20日（水）	7月15日（土）	9月16日（水）	11月18日（土）	合計
受講者数	0	6名	5名	2名	13名

(イ) 場所 福岡県動物愛護センター（大会議室）

(ウ) 時間 10：00～12：00

(エ) 対象 一般県民（猫の同伴はなし。）

(オ) 内容 猫をとりまく現状、猫の習性の理解、猫のニーズを満たす、猫のストレスサイン、なぜ、完全室内飼育なの？猫の病気と健康管理、猫の不妊去勢手術の必要性、完全室内飼育のためのポイント、トイレのしつけ、猫の食事、お手入れ等

イ 保健福祉（環境）事務所または市町村等主催

(ア) 新宮町主催

- a 日時 8月27日（木）19：00～20：30
- b 場所 夜臼二区公民館
- c 受講者数 区民20名他関係者3名

(イ) 動物愛護団体主催

- a 日時 9月19日（土）13：30～15：30
- b 場所 筑前町めくばーる学習館視聴覚室
- c 受講者数 21名

(5) 動物愛護教室事業

ア (公財) 福岡県動物愛護センター主催

(ア) 開催状況

月日(曜日)	時 間	大人	子ども	(登録) ボランティア
7月26日(日)	台風により中止			
8月20日(木)	13:30~15:00	4名	6名	4名

(イ) 場所 福岡県動物愛護センター(大会議室)

(ロ) 対象 幼稚園、小学校等の園児、児童(30名程度)

(ハ) 内容 動物の気持ち、動物と楽しく暮らすための約束、動物の役割等

イ 保健福祉(環境) 事務所または市町村主催

(ア) 北筑後保健福祉環境事務所主催

a 開催日時 7月29日(水) 13:30~15:30

b 場所 福岡県動物愛護センター(大会議室)

c 受講者数 親子7組20名 その他関係者11名

(6) 講師派遣

主催者の依頼により講師等を派遣した。

ア 猫の飼い方講座(主催 新宮町)

(ア) 日時 8月27日(木) 19:00~20:30

(イ) 場所 新宮町夜臼二区公民館

(ロ) 受講者数 区民20名他関係者3名

イ 猫の飼い方講座(主催 動物愛護団体)

(ア) 日時 9月19日(土) 13:30~15:30

(イ) 場所 筑前町めくばーる 学習館視聴覚室

(ロ) 受講者数 21名

ウ 犬のしつけ方教室(主催 イオン筑紫野店)

(ア) 日時 9月30日(水) 13:00~15:00

(イ) 場所 イオン筑紫野店内動物病院待合所

(ロ) 受講者数 9組13名

エ 犬のしつけ方教室(主催 春日市)

(ア) 日時 1月29日(金) 13:30~16:00

(イ) 場所 春日まちづくり支援センター ぶどうの庭

(ロ) 受講者数 8組9名、動物愛護推進員1名、筑紫保健福祉環境事務所1名

(7) 譲受団体研修会

ア 開催日時 6月22日(月) 13:30~16:00

- イ 参加団体 10団体15名
 ウ 場 所 福岡県動物愛護センター（大会議室）
 エ 対 象 登録の譲受団体（6/22時点の登録譲受団体16団体）
 オ 内 容 動物愛護関連法令及び福岡県の現状について（保健衛生課乳肉衛生係
 担当者が説明）、意見交換

（８）ボランティア研修会

ア 新規ボランティア研修会

（ア）開催状況

月日（曜日）	受講 者数	登録可	登録済
4月26日（日）	4名	4名	4名
6月3日（水）	2名	2名	2名
8月23日（土）	3名	3名	3名
10月7日（水）	6名	6名	6名
12月20日（日）	2名	2名	2名
2月3日（水）	1名	1名	1名
合計	18名	18名	18名

- （イ）場所 福岡県動物愛護センター（大会議室）
 （ロ）時間 9：00～11：30
 （エ）対象 センター事業を支援する意思のある方
 （オ）内容 ボランティアに必要な事項等の指導
 （カ）新規ボランティア登録者 18名

（参考）ボランティアの活動状況

ボランティア活動の動物愛護事業名		事業回数	参加人 数 (延)	反省会及び 意見交換会
これから犬を飼う人のための講習会		22回	178名	22回
動物愛護フェスティバル		1回	10名	1回
犬のしつけ方教室	一般コース	7回	42名	7回
	子犬コース	12回	96名	12回
ワンパク同窓会		2回	12名	
動物愛護教室		1回	4名	
研修会（11月・3月実施）		2回	24名	2回
センターオープンデー		2回	11名	
日常のお世話（散歩、シャンプー、手入れ等）		32回	70名	
合 計		81回	447名	44回

イ ボランティア研修会

登録ボランティアを対象に、平成27年度（1月末日まで）の事業報告、及び平成28年度の事業計画を説明後、ボランティア及びセンター職員との意見交換を行った。

(ア) 開催日時 3月16日（水）10:00～11:30

(イ) 参加人数 22人（センター職員9人含む）

ウ ボランティア及び譲受団体研修会

(ア) 開催日時 11月30日（月）13:30～16:00

(イ) 参加人数 7団体11名（11/30時点の登録譲受団体19団体）

参加ボランティア 11名 その他関係者：25名

(ウ) 場所 福岡県動物愛護センター（大会議室）

(エ) 対象 登録の譲受団体、登録のボランティア

(オ) 内容 講演「地域猫活動について」「猫の病気について」

(9) 動物愛護に関する行政機関との連携事業

動物愛護事業について保健福祉（環境）事務所等と連携を図るため次の事業を行った。

ア 動物行政担当者研修会及び情報交換会

(ア) 研修会

a 日時 6月24日（水）14:00～17:00

b 場所 福岡県動物愛護センター

c 参加者 16名

(イ) 情報交換会

a 日時 1月13日（火）14:00～17:00

b 場所 福岡県動物愛護センター

c 参加者 15名

イ 愛護動物同行避難訓練

(ア) 福岡県原子力防災訓練

a 日時 11月28日（土）11:00～15:00

b 場所 福岡工業高校

c 内容 「災害時の備えとしつけの必要性について」同行訓練参加住民に対し講話

ウ 福岡県内動物愛護（管理）センター会議

a 日時 1月15日（金）15:00～17:00

b 場所 福岡県吉塚合同庁舎（804会議室）

c 参加者 11名

エ 動物愛護推進協議会に対する動物愛護事業の支援

(ア) 飼い主マナーアップキャンペーンイベント（粕屋支部推進協議会主催）

- a 日時 6月30日（火）及び11月24日（火）の12：30～14：00
- b 場所 イオンモール福岡ルクル
- c 内容 センター事業のPR及び啓発

オ 県関係説明会及び会議

(ア) 市町村動物行政担当者会議

- a 日時 3月15日（火） 13：30～15：30
- b 場所 吉塚合同庁舎
- c 内容 センター事業の紹介

(イ) 動物愛護推進員委嘱式及び研修会

- a 日時 3月24日（木） 14：30～16：30
- b 場所 吉塚合同庁舎
- c 内容 センター事業の紹介

2 ペット相談事業

ペット等に関する相談を電話、センター窓口において受け付けた。

犬は譲受を希望する問い合わせ、猫は保護した猫の飼い主捜しが一番多い。

犬、猫ともに失踪に関する問い合わせが増えてきており、鑑札、迷子札等の装着の必要性についてアドバイスしている。

また、猫に関しては、野良猫のエサやりや、子猫の譲渡相談、不妊去勢手術の相談等が増えてきている。

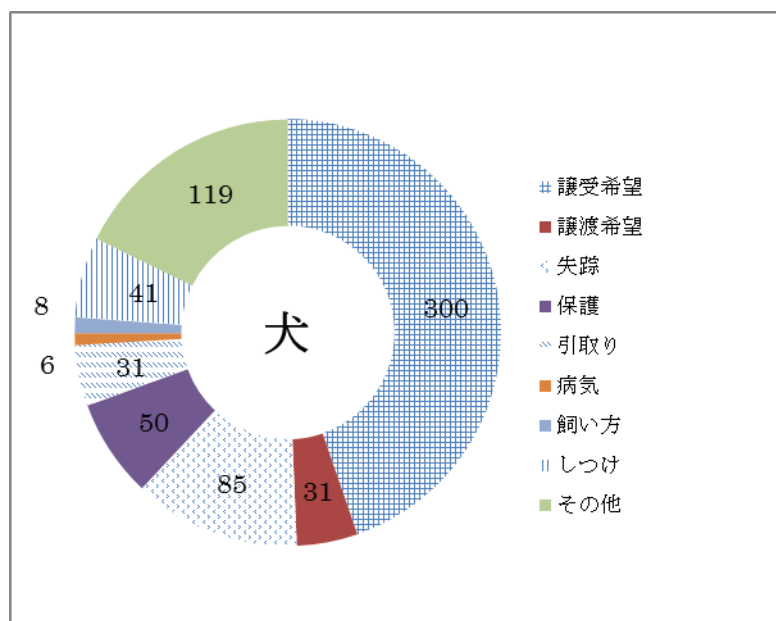
その他、ボランティアを希望する問い合わせが多く、新規ボランティア研修会の受講を案内している。

(1) 相談件数 1,111件（犬671件、猫415件、その他25件）

(2) 相談内容

相談内容	犬の件数	猫の件数
譲受希望	300件	78件
譲渡希望	31件	35件
失踪	85件	59件
保護	50件	92件
引取り	31件	46件
病気	6件	10件
飼い方	8件	15件
しつけ	41件	
その他	119件	80件

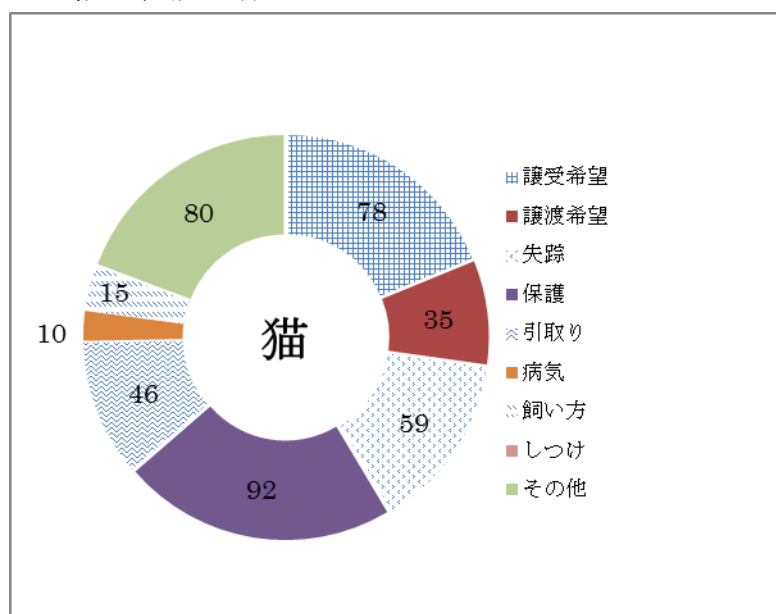
ア 犬の相談内容



○犬のその他の主な内容

- ・ 老犬介護
- ・ 老犬ホーム
- ・ HPの収容犬について
- ・ 一時預かって欲しい 等

イ 猫の相談内容



○猫のその他の主な内容

- ・ 不妊去勢手術の助成
- ・ 猫のエサやりに関する苦情相談
- ・ 猫の虐待について
- ・ 猫の死体処理について 等

ウ 犬及び猫以外の主な相談内容

- ・ ボランティア希望
- ・ 動物愛護団体に関する問い合わせ
- ・ 寄付に関する問い合わせ
- ・ 致死処分方法について
- ・ ペットショップ、ブリーダーに関することについて 等

3 調査研究事業

(1) 譲渡犬の飼養実態調査

ア 調査の概要

子犬の譲渡会事業において、飼養希望者に譲渡した犬の飼養状況を把握し、今後の本事業の参考とするために、次のとおり追跡調査を実施した。

- (ア) 対象及び件数 平成26年度譲渡子犬の飼養者39名 (♂14頭、♀25頭)
- (イ) 期 間 平成27年4月～平成28年3月
- (ウ) 方 法 封書によるアンケート各戸調査
- (エ) 内 容 「飼養状況アンケート」
- (オ) アンケート回収数(率) 32件(82.1% ♂11 ♀21)

イ 調査結果(単位：%)

① 現在の健康状態(N=32)

- 健康・・・32件(100.0%)

〔現在の体重〕

- ・ ～10.0kg・・・7頭(21.9%)
- ・ 10.1kg～15.0kg・・・16頭(50.0%)
- ・ 15.1kg～20.0kg・・・5頭(15.6%)
- ・ 20.1kg～25.0kg・・・4頭(12.5%)

- 譲 渡・・・0件
- 死 亡・・・0件
- 失 踪・・・0件

② 飼育の目的〔複数回答〕

〔以降N=32 ♂11 ♀21〕

- 番犬・・・・・・・・ 8件(25.0%)
- 愛玩用・・・・・・・・ 5件(15.6%)
- 子供の教育用・・・ 2件(6.3%)
- 家族として・・・・ 25件(78.1%)
- その他・・・・・・・・ 3件(9.4%)

③ 飼育場所〔複数回答〕

- 家の中で・・・・・・ 19件(59.4%)
- 囲いの中で・・・・・・ 5件(15.6%)
- 庭で放し飼い・・・ 3件(9.4%)
- クサリで繋留・・・ 15件(46.9%)

④ 狂犬病予防法に基づく登録・注射は

- 受けている・・・・ 32件(100.0%)
- 受けていない・・・ 0件(0.0%)

⑤ 主に犬の世話をする人は 〔複数回答〕

- 夫・・・・・・・・ 16件(50.0%)
- 妻・・・・・・・・ 25件(78.1%)
- 子供・・・・・・ 12件(37.5%)

○ その他・・・ 4件（12.5%）

・ 祖父母

⑥ 犬の運動は〔複数回答〕

○ 特にさせていない・・・ 0件（0.0%）

○ 庭で追放し・・・ 2件（6.3%）

○ 引き綱で運動・・・ 30件（93.8%）

○ ドッグラン・・・ 0件（0.0%）

⑦ 食事の内容は〔複数回答〕

○ ドッグフード・・・ 31件（96.9%）

○ 家族のものと同じ・・・ 3件（9.4%）

○ その他・・・ 4件（12.5%）

〔主な内容〕・いりこ・ササミ・茹で野菜等

⑧ 飼育していて困ったこと、現在困っていること

○ ある・・・ 15件（46.9%）

〔主な内容〕

・ アマガミ・物を噛む・・・ 6件

以下各2件

・ 神経質、人見知り ・ 散歩時の引っ張り ・ 犬小屋に入らない

以下各1件

・ トイレの失敗 ・ 拾い食い ・ 車酔い ・ 何でも口に入れる

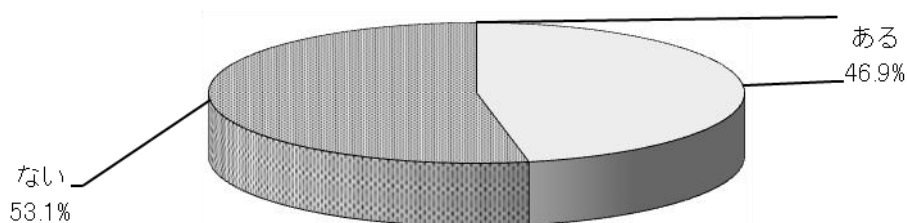
・ 大きくなりすぎた ・ 落ち着きがない ・ 元気が良すぎる

・ フードを喜んで食べない

○ ない・・・ 17件（53.1%）

○ 回答なし・・・ 0件（0, 0%）

飼育していて困ったこと



⑨ 不妊・去勢手術について

○ 受けた・・・ 32件（100.0%）

〔性別による内訳 ♂11件 ♀21件〕

○ 受けたい・・・ 0件（0.0%）

【性別による内訳 ♂ 0件 ♀ 0件】
○ 受けたくない・・・・・・・・ 0件 (0%)

【性別による内訳 ♂ 0件 ♀ 0件】
○ 回答なし・・・・・・・・ 0件 (0%)

【性別による内訳 ♂ 0件 ♀ 0件】

⑩ 動物病院での受診経験は

○ あ る・・・・・・・・ 32件 (100.0%)

【主な内容】

- ・ワクチン、フィラリア予防、狂犬病注射等 (31件)
- ・不妊去勢手術 (30件) ・健康診断 (4件) ・嘔吐、下痢 (2件)

以下各1件

- ・目ヤニ (1件) ・爪切り (1件) ・マダニ駆除 (1件)
- ・アレルギー (1件) ・皮膚病 (1件) ・歯茎から出血 (1件)

○ な い・・・・・・・・ 0件 (0%)

○ 回答なし・・・・・・・・ 0件 (0%)

⑪ 今回犬を飼っての感想は〔複数回答〕

○ よかった・・・・・・・・ 31件 (96.9%)

【主な理由】

- ・癒される・・・・・・・・ 12件
- ・家族の会話が増えた・・・・・・・・ 10件
- ・散歩で健康的になった・・・・・・・・ 8件
- ・子どものためになった・・・・・・・・ 6件

以下各3件

- ・近所の人から可愛がってもらえる ・とにかくかわいい
- ・犬がいると楽しい

以下2件

- ・犬仲間が増えた ・家族の一員です

以下各1件

- ・番犬になる ・家が明るくなった ・やさしくなった
- ・子どもの代わりになる ・いい気分転換になる
- ・世界の見え方が違う ・話し相手になってくれる
- ・イノシシの出没を教えてくれる

○ 悪かった・・・・・・・・ 4件 (12.5%)

【理由】

- ・長期の旅行ができない・・・・・・・・ 2件

以下各1件

- ・世話が大変 ・車をかじられた ・家具をかじられた

○ その他・・・・・・・・ 3件 (9.4%)

【理由】

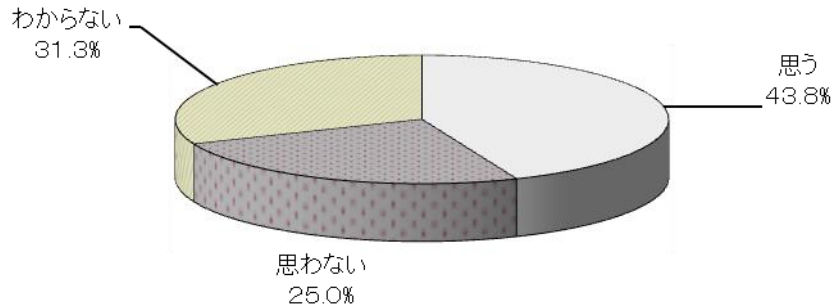
各1件

- ・アマガミがひどい ・しつけで家族の意見が合わない
- ・飼育担当が私一人に集中 ・予想以上に大きくなった

○ 回答なし・・・・・・・・ 1件 (3.1%)

⑫ お宅の犬はしつけが良い方だと思いますか。

- 思 う・・・・・・・・ 14件 (43.8%)
- 思わない・・・・・・・・ 8件 (25.0%)
- わからない・・・・・・・・ 10件 (31.3%)
- 無回答・・・・・・・・ 0件 (0%)



⑬ センターで行っている「しつけ方教室」について

- 参加した・・・・・・・・ 16件 (50.0%)
- 参加したい・・・・・・・・ 5件 (15.6%)
- 参加できない・・・・・・・・ 10件 (31.3%)
- 参加したくない・・・・・・・・ 1件 (3.1%)
- 知らなかった・・・・・・・・ 1件 (3.1%)
- 回答なし・・・・・・・・ 0件 (0.0%)

⑭ 飼い犬に関する勉強会や犬とともに地域活動に参加したいと思いますか。

- 是非参加したい・・・・・・・・ 4件 (12.5%)
- 都合がつけば参加したい・・・・・・・・ 17件 (53.1%)
- 参加したいができない・・・・・・・・ 6件 (18.8%)
- 参加したくない・・・・・・・・ 5件 (15.6%)
- 無回答・・・・・・・・ 0件 (0.0%)

⑮ センターへの意見・要望

- お礼、近況報告
 - ・ 譲渡してもらってありがとうございます (8件)
 - ・ 楽しく暮らしています (5件)
- しつけについて
 - ・ センターでしつけがしてあったので助かった (2件)
 - ・ しつけ方教室は大変勉強になりました (2件)
 - ・ 犬同士の友達をマッチングさせるようなフォローを希望します (1件)
- センターへの要望等
 - ・ 今後も啓発活動を頑張ってください (3件)
 - ・ 動物たちのことを、もっと広報してほしい (2件)

以下各1件

- ・土、日曜日に開催して欲しい
- ・子ども対象の勉強会を開催して欲しい
- ・センターへの里帰り会があれば参加したい
- ・フン放置などマナーの悪さが目につくので講習会時に話して欲しい

ウ まとめ

- (ア) アンケートの回収率は82.1%で昨年の83.8%より少し下がった。譲渡後の状況を知る上でアンケート調査は有効な手段であることから、譲渡時の説明を徹底するなどし、回収率の向上に務めたい。
- (イ) 回答者の譲渡犬の100%が健康に生活していることを確認できた。
- (ウ) 1年後の体重は、15kg未満が71.9%で概ね予想された範囲内であり、体重（大きさ）を困った点に挙げる回答者はいなかった。健康状態も含め将来的な予測が困難であることは、今後とも適切に説明していく必要がある。
- (エ) 譲渡の4条件（畜犬登録・狂犬病予防注射接種、適正飼養・終生飼養、不妊・去勢手術、飼養可住宅）のうち、畜犬登録及び狂犬病予防注射は100%、不妊去勢手術は100%の方が「済み」と回答しており、事前講習会の効果が現れていると思われる。
- (オ) 飼育していて困ったこと、現在困っていることについては、「ある」と回答された方が46.9%あり、その主な内容は、「アマガミ」、「物を噛む」等であった。いずれもしついで改善が見込めるものと思われることから、センターが開催する「しつけ方教室」の参加や個別指導の他、利便性を考慮した「しつけ方教室」の開催方法の検討（市町村等の主催による開催を含む）が必要と思われる。
- (カ) 飼い始めた感想については、96.9%の方が「良かった」と回答しており、その主な理由として「癒される」、「家族の会話が増えた」、「散歩で健康になった」、「こどもためになった」を挙げている。
一方、12.5%の方が「悪かった」との回答もあり、その理由は「長期の旅行ができない」、「世話が大変」、「車や家具をかじられた」等を挙げている。
- (キ) 「しつけ」については、43.8%の方が「良い方だと思う」と回答しており、回答者全員のうち、50%の方しかセンターのしつけ方教室を受講していないことから、しつけ方教室の受講をさらに促す必要がある。
- (ク) 「飼い主に関する勉強会や犬とともに地域活動」への参加については、「是非参加したい」及び「都合がつけば参加したい」と65.6%の方が回答していることから、譲受者のフォローアップを継続的に実施することで、モデル的な飼い主の育成・組織化、愛護事業へのボランティア参加等が期待できるものと思われる。
- (ケ) 質の高い譲渡事業を目指すため、平成14年度から事前講習会制度を導入した。導入当初は、「譲渡適否の審査が厳しい」との指摘もあったが、現在では、他の自治体や愛護団体が実施する譲渡事業も同様な審査を行うようになってきており、「厳しい」との指摘は無くなっている。
- (コ) センターへの意見・要望については、譲渡への感謝（8件）、楽しく暮らしています（5件）、しつけ方教室は大変勉強になりました（2件）、今後も啓発活動を頑張ってください（3件）、動物たちのことをもっと広報して欲しい（2件）等であった。

エ 総括

調査結果については、センターだけではなく他団体が愛護事業を企画及び実施する際の資料としても活用できるよう、「事業概要」等で公表するほか、各種研修会においても説明を行う予定である。

なお、本アンケート調査は、平成16年度の譲渡者から実施しており、対象者は少ないものの回収率は比較的高く、譲渡事業の評価に有効な手法と思われる。

(2) 猫の適正飼養に関する調査

ア 調査の概要

動物愛護週間事業の一環として行われている「2015動物愛護フェスティバルふくおか」において、今後の猫の適正飼養の普及啓発事業の参考とするために、次のとおり「猫に関するアンケート調査」を実施したので報告する。

(ア) 対象及び件数 当該フェスティバル時に、センター設置の動物愛護事業啓発ブースに来場された方。回答件数77件。

猫を飼育している人からの回答	11件(14%)
猫を飼育していない人からの回答	66件(86%)

(イ) 調査日時 平成27年10月10日(土) 10:00~14:00
「2015動物愛護フェスティバルふくおか」開催時

(ウ) 調査場所 だざいふ遊園地(太宰府市)

(エ) 調査方法 猫を飼育している、猫を飼育していないかを確認の上、それぞれ別のアンケート調査用紙を配付し記入を依頼

(オ) 調査内容 「猫の適正飼養に関するアンケート」

イ 調査結果

(ア) 猫を飼育している人について

① 飼育頭数

- ♂のみ1頭飼育 5名(45%)
- ♀のみ1頭飼育 2名(18%)
- ♂♀両方飼育 4名(37%)

② 完全室内飼育を知っているか?

- 知っている 11名(100%)
- 知らない 0名(0%)

③ 飼育場所

- 完全室内飼育 11名(100%)
- 外との出入り自由 0名(0%)
- 完全外飼育 0名(0%)

④ ケージを使用しているか?

- 使用している 1名(9%)
- 使用していない 10名(91%)

⑤ 排泄場所

- 庭等の自己所有土地 1名 (9%)
- 室内の猫用トイレ 10名 (91%)

⑥ 不妊去勢手術の有無

- している 10名 (91%)
- していない 1名 (9%)

⑥-1 不妊手術と去勢手術の割合

- ♂の飼育者 5名 (5名中4名 80%)
- ♀の飼育者 2名 (2名中2名100%)
- ♂♀両方飼育 4名 (4名中4名100%)

⑦ 所有者明示

- している 3名 (27%)
- 何もしていない 7名 (64%)
- 不明 1名 (9%)

⑧ 災害時の同行避難の準備

- している 4名 (36%)
- していない 7名 (64%)

⑧-1 準備していること

- ・キャリーバックに入れることに慣らす
- ・5日分の食事、ペットボトルの水、トイレシート、リード等を用意している

⑨ 野良猫にエサだけを与えることについて

- 賛成 2名 (18%)
- 反対 3名 (27%)
- どちらでもない 5名 (45%)
- 不明 1名 (10%)

⑩ 処分を減らすために

- ・不幸な猫を増やさないよう不妊去勢手術をする 4名
- ・まずは、啓発する (以下1名)
- ・野良猫を減らす
- ・犬と同様に登録、予防接種を行う
- ・完全室内飼いの義務化 (散歩時リード使用)
- ・ペットショップの売買を厳しくする
- ・大切に育てる
- ・新しい飼い主を探す

(イ) 猫を飼育していない人について

① 猫が好きか嫌い

- 好き 44名 (67%)
- 嫌い 2名 (3%)
- どちらでもない 20名 (30%)

② 完全室内飼育

<全体（66名）>

- 賛成 28名（42%）
- 反対 10名（16%）
- どちらでもない 28名（42%）

<猫が好きな人（44名）>

- 賛成 19名（42%）
- 反対 7名（16%）
- どちらでもない 18名（42%）

<猫が嫌いな人（2名）>

- 賛成 1名（50%）
- 反対 0名（0%）
- どちらでもない 1名（50%）

<どちらでもない人（20名）>

- 賛成 8名（40%）
- 反対 4名（20%）
- どちらでもない 8名（40%）

②-1 賛成の理由

- ・糞尿等による苦情を防ぐことができる
- ・猫を病気・交通事故から守ることができる
- ・外飼いは土足で家が汚れる虫を取ってきて抵抗がある

②-2 反対の理由

- ・外の空気を吸わせてやりたい
- ・かわいそう
- ・室内飼いは、動物らしさがなくなる。

②-3 どちらでもない理由

- ・わからない
- ・安全だけど外に出られないのはかわいそう
- ・都市部郊外部では生活環境が異なるので一概には言えない。

③ 野良猫にエサだけ与えることについて

<全体（66名）>

- 賛成 5名（8%）
- 反対 51名（77%）
- どちらでもない 10名（15%）

<猫が好きな人（44名）>

- 賛成 4名（9%）
- 反対 32名（73%）
- どちらでもない 8名（18%）

<猫が嫌いな人（2名）>

- 賛成 0名（0%）
- 反対 2名（100%）

- どちらでもない 0名（0%）
- <どちらでもない人（20名）>
- 賛成 1名（5%）
- 反対 17名（85%）
- どちらでもない 2名（10%）
- ③-1 賛成の理由
- ・かわいそう
- ③-2 反対の理由
- ・エサを与えることなら飼ったほうがよい。
 - ・糞尿をする
 - ・ごみを散らす
 - ・住みついて子猫が増える
- ③-3 どちらでもない理由
- ・責任を持って飼わないと病気になったとき、ねこが困る
 - ・野良猫は増えるのはだめだけど、今いる猫はちゃんと向き合わなければならないから
- ④ 困っていること
- ある 21名（32%）
- ない 45名（68%）
- ⑤ 困っていること（複数回答可）
- 敷地内への排便 12名
- 敷地内への侵入 3名
- 鳴き声 3名
- 抜け毛 4名
- ⑥ 困っている猫
- 飼い猫 6名（26%）
- 野良猫 13名（57%）
- わからない 4名（17%）
- ⑦ 処分を減らすために
- ・不妊去勢手術をする 15名
 - ・責任を持って飼う 8名
 - ・野良猫にエサを与えない 4名
 - ・完全室内飼育を啓発する 2名
 - ・最期まで飼う 2名
 - ・放し飼いの禁止 1名
 - ・安易に飼い始めない 1名
 - ・地域猫への正しい理解 1名
 - ・譲渡会を行う 1名
 - ・わからない 1名

- (ア) 猫を飼育している人で♂を1頭のみ飼育している人は5名いた。♀を1頭のみ飼育している人は2名いた。♂♀両方を飼育している人は4名おり、複数等飼う場合も、性別に関係なく飼育していた。
- (イ) 猫を飼育している11名全員が、完全室内飼育が一般的になっていることを知っており、猫を飼育している人にとっては既に完全室内飼育が認知されていることが分かった。
- (ウ) 不妊去勢手術については、飼育している11名中、10名が実施していた。
- (エ) 所有者明示していない人が7名（64%）いた。交通事故による死亡も含め、家に帰れない飼い猫の数が多いことを考慮すると、迷子札及びマイクロチップを装着する等の必要性について啓発していく必要がある。
- (オ) 災害時における同行避難に関する設問に対しては、11名中4名（36%）の飼い主しか対策を講じていないため、さらにその必要性について啓発していく必要がある。
- (カ) アンケート調査者（計77名）のうち猫を飼育していない人66名中、猫が好きと答えた人は44名（67%）、嫌いと答えた人は2名（3%）、どちらでもない人は20名（30%）であった。
どちらでもないと答えた人に対しても、さらに猫の適正飼育について普及啓発していく必要がある。
- (キ) 完全室内飼育について、猫を飼育していない人66名のうち28名（42%）が賛成と答え、猫が好きと答えた人44名中19名（43%）が賛成であった。賛成の理由は、糞尿等の苦情を防ぐことができる、病気・交通事故から猫を守ることができる等があった。また、反対の理由は外の空気を吸わせてあげたい、かわいそう、動物らしさがなくなる等であった。従って、今後、これから猫を飼う人、猫を飼い始めた人等を対象とした講習会を実施し、近隣からの苦情を防ぐことや、猫の安全を守るための具体的な飼育方法を示して、完全室内飼育の必要性を啓発していくことが重要である。
- (ク) 野良猫にエサだけを与えることについて、猫を飼育している人11名中3名（27%）が反対と答えたのに対し、飼育していない人66名中51名（77%）が反対と答えており、全体（77名）でも54名（70%）の人が否定的であった。このことから、猫へのエサやりは受け入れられていないということを考慮して、地域猫活動を進めていく上で、野良猫へのエサやり等について、地元の理解を得ることが重要である。
- (ケ) 猫を飼育していない人66名中、猫のことで困っていることがあると答えた人は21名（32%）で、困っていることは敷地内への排便（12名）及び侵入（3名）で敷地内に関することが多かった。困っている猫は、飼い猫が6名（9%）と野良猫13名（20%）であったことから、飼い猫は完全室内飼育の啓発と野良猫には地域猫活動等の対策が必要である。
- (コ) 猫の殺処分頭数を減らすためにはどうしたらよいかということについては、アンケート調査者77名のうち19名（25%）の人が不妊去勢手術が必要だと答えており、認知度からいえば十分ではないと思われるため、さらに不妊去勢手術の必要性について啓発していくことが重要である。

- (㉟) 猫を飼育していない人66名中、責任を持って飼う、最期まで飼う、完全室内飼育を啓発すると回答した人は、計12名（18％）で、さらに適正飼養に関する啓発が必要である。
- (㊱) 捕まえて、避妊去勢手術を実施、新たな飼い主を探す場合、費用を助成する制度についての意見など、経済的に負担が少ないよう制度をさらに進める必要がある。
- (㊲) 地域猫への正しい理解の推進等啓発に関する回答も寄せられている。啓発に関する事業については、効果的啓発手法の検討や試験的な運用を様々な方法で試みながら、あらゆる機会をとらえて啓発する必要がある。
- (㊳) ペットショップでの猫の販売を厳しくする等の行政への提案もあった。このことについては、必要に応じて関係機関が時間をかけて検討することが必要である。

エ 総括

猫を飼っていない人及び苦手な人も含めて、人と猫が共生できる社会の実現を目指すため、次の取組みを実施することが重要である。

- (㊴) 動物と人との共生を図っていくためには、猫の感染症、交通事故防止等、猫の安全を推進することはもとより、敷地への侵入や糞尿汚染による生活環境の汚染を防止することが大切であり、完全室内飼育の必要性を柱とする適正飼養に関する講習会を開催する等の普及啓発活動を実施することが肝要である。
- (㊵) 猫にストレスをかけることなく完全室内飼育をするためには、猫のニーズに適した飼養環境を整備し、不妊去勢手術を実施することが重要である。そのため講習会等で完全室内飼育の必要性について啓発する場合は、猫の習性を説明し、上下運動が出来る場所の確保や、安全で安心して隠れる場所が必要である等、完全室内飼育をするために必要な具体的な方法がわかりやすい内容にすることが重要である。
- (㊶) 今後、野良猫の対策として実施される地域猫活動を支援するためにも、不妊去勢手術の必要性や、飼い猫の完全室内飼育を柱とする適正飼養を周知する取組みの実施が必要である。

4 動物愛護・管理支援事業

(1) 動物の収集及び管理に関する事業

ア 収集、譲渡及び致死処分状況

単位：頭

区 分		犬	猫	その他	合計
① 前年度からの繰越		8	2	0	10
収 集	②保健福祉（環境）事務所等からの捕獲犬及び引取犬・猫	801	1,980	0	2,781
	③保健福祉（環境）事務所からの負傷動物	41	368	0	409
	④ 収集計（②＋③）	842	2,348	0	3,190
譲 渡	⑤ センター譲渡	46	40	0	86
	⑥ 譲受団体譲渡	152	79	0	231
	⑦ 譲渡計（⑤＋⑥）	198	119	0	317
⑧ 致死処分計（①＋④－⑦－⑨）		644	2,227	0	2,871
⑨ 翌年度への繰越		8	4	0	12

イ 致死処分方法の検討

本年度、炭酸ガスによる致死処分以外の方法を検討するため、一部の犬猫に対して致死量の麻酔薬投与による致死処分を実施した。

○犬 2 頭（子犬 1 頭含む）

○猫 4 頭（子猫 2 頭含む）

(2) 犬及び猫の譲渡事業

猫の致死処分数の減少を図るとともに、地域における模範的飼養者の育成及び適正飼養の普及啓発を図るため、センターにおいて保管・管理している、健康で家庭動物として適正のある犬及び猫について、譲渡を行った。

ア 譲受希望者への犬の譲渡（センター譲渡）

犬の譲受希望者に対しては、事前講習会の受講を義務づけるとともに、譲受希望者には面談による飼養環境調査を実施し、適正飼養及び終生飼養に支障がないことを確認して譲渡を行った。

また、譲渡犬については 6 種感染症ワクチンを接種するとともに、内外部寄生虫駆除を行っている。

(ア)「これから犬を飼う人のための講習会」(事前講習会)

センターから犬の譲渡を希望される方に対し、講習及び面談を実施した。

a 講 習 「あなたは本当に犬が飼えますか?」、「犬を迎える準備」

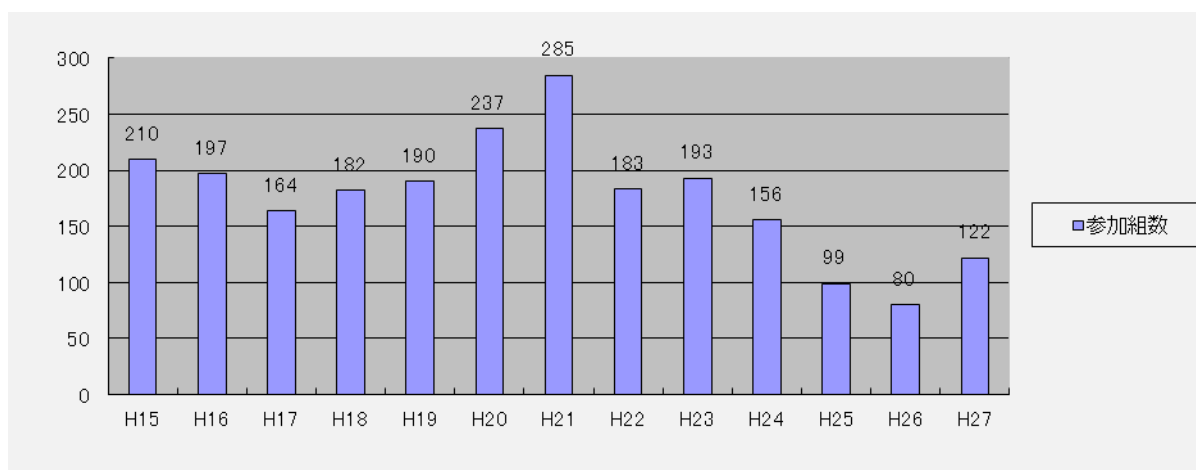
b 面 談 犬の飼養環境調査表(譲受希望者記入)等に基づく聴取。

c 開催状況

月 日(曜日)	受講者数	組数	見学者数	備 考
4月 1日(水)	21名	12組	1名	
4月 15日(〃)	10名	9組		
5月 20日(〃)	20名	13組	4名	
6月 3日(〃)	4名	3組	4名	
6月 17日(〃)	13名	10組		
7月 1日(〃)	6名	6組		
7月 15日(〃)	6名	4組	1名	
8月 5日(〃)	10名	4組	1名	
8月 19日(〃)	9名	5組		
9月 2日(〃)	4名	3組		
9月 16日(〃)	6名	5組		
10月 7日(〃)	5名	4組		
10月 21日(〃)	4名	2組		
11月 4日(〃)	9名	6組		
11月 18日(〃)	8名	6組		
12月 2日(〃)	9名	6組		
12月 16日(〃)	6名	5組		
1月 20日(〃)	6名	5組		
2月 3日(〃)	受講者なし			
2月 17日(〃)	11名	6組		
3月 2日(〃)	7名	4組	2名	
3月 16日(〃)	4名	2組		
合計	178名	122組	13名	

※事前講習会の定員は20名(事前申込み制)、開催時間は13時30分から16時

(イ) 事前講習会参加組数の推移



(ウ) 事前講習会での面談結果及び譲渡状況

- ・事前講習会での面談組数は、受講者組数 122 組のうち 118 組であった。
- ・4 組については、受講のみ 2 組及び辞退 2 組であった。
- ・面談の結果、譲渡可は 60 組、条件付譲渡可は 39 組、譲渡不可及び自ら譲受を辞退したのは 19 組だった。

(エ) 譲渡後のフォローアップ及び飼養実態調査

- 電話によるフォローアップ（譲渡 10 日後）
- 家庭訪問（譲渡 4 カ月後）
- 郵送によるアンケート調査（譲渡 1 年後）

イ 譲受希望者への猫の譲渡（センター譲渡）

譲受希望者には随時の個別面談による飼養環境調査を実施し、適正飼養及び終生飼養に支障がないことを確認して譲渡を行った。

また、譲渡猫については 3 種感染症ワクチンを接種するとともに、内外部寄生虫駆除を行っている。

(ア) 個別面談数

48 組

(イ) 譲渡後のフォローアップ及び飼養実態調査

- 郵送によるアンケート調査（譲渡 2 カ月後）

ウ 犬及び猫の譲渡状況（センター譲渡）

単位：頭

犬		猫		合計
成犬	子犬	成猫	子猫	
15	31	10	30	86

エ 市町村別譲渡頭数（成犬・子犬・猫）

単位：頭

事務所名	市町村名	成犬	子犬	猫	事務所名	市町村名	成犬	子犬	猫
筑紫 保健福祉環境事務所	筑紫野市		1	2	北筑後 保健福祉環境事務所	朝倉市	1	1	
	春日市			1		小郡市		1	
	大野城市			1		うきは市			
	太宰府市	1		2		筑前町			
	那珂川町					大刀洗町			
						東峰村			
粕屋 保健福祉事務所	古賀市	2	7	3	南筑後 保健福祉環境事務所	柳川市			
	宇美町			1		みやま市		1	
	篠栗町					八女市			
	志免町	1	1			筑後市			3
	須恵町			1		大川市			
	新宮町		1	3		大木町			
	粕屋町	1				広川町	1		
	久山町								
糸島保健福祉事務所	糸島市	2		2	京築 保健福祉環境事務所	行橋市			
宗像・遠賀 保健福祉環境事務所	宗像市	1	1	4		豊前市			
	福津市		3	3		みやこ町			
	中間市		1			苅田町			
	芦屋町					吉富町			
	水巻町			1		築上町			
	岡垣町	1	1	2		上毛町			
	遠賀町		1						
嘉穂・鞍手 保健福祉環境事務所	飯塚市			3	北九州市 動物愛護センター	北九州市	1		
	嘉麻市		1		福岡市 動物愛護管理センター	東区	1	3	2
	桂川町	1				博多区			2
	直方市		2			中央区			
	宮若市					南区	1	1	3
	鞍手町					城南区			
	小竹町					早良区		1	1
						西区			
田川 保健福祉事務所	田川市		2		大牟田市 動物管理センター	大牟田市			
	香春町								
	添田町				久留米市 動物管理センター	久留米市		1	
	糸田町								
	川崎町								
	大任町								
	福智町								
	赤村								
平成27年度譲渡数							成犬	子犬	猫
							15	31	40

エ 譲受団体への譲渡

センターの登録基準を満たした団体に対し、当該団体が希望する犬猫を譲渡した。

※登録基準：福岡県犬及びねこの団体譲渡に係る要領（平成 22 年 5 月 26 日施行）

(7) 登録譲受団体数

19 団体（平成 28 年 3 月 31 日現在）

(i) 犬及び猫の譲渡状況

単位：頭

犬		猫		合計
成犬	子犬	成猫	子猫	
119	33	29	50	231

(3) 譲渡動物への不妊去勢手術

生後 4 カ月齢以上の譲渡動物を対象に実施した。

ア 不妊去勢手術の実施状況

単位：頭

	メス	オス	合計
犬	10	11	21
猫	17	21	38
合計	27	32	59

(4) 福岡県獣医師会の支援診療

県獣医師会支援事業により、4 回の支援診療を受けた。

(5) マイクロチップの装着（譲渡動物を対象）

犬 45 頭、猫 54 頭に装着。

(6) 施設の保守及び管理業務

建物・施設、財産の適正な維持管理に必要な業務を行った。

5 動物愛護週間事業等

動物愛護週間は「動物の愛護及び管理に関する法律」に基づき、広く国民の間に、命あるものである動物の愛護と適正飼養について関心と理解を深めるために設けられたもので、センターでは次の事業を行った。

(1) 動物慰霊祭及び講演会

- ・開催日及び場所 10月14日(水)、福岡県動物愛護センター(古賀市)

ア 動物慰霊祭

- ・参列者 77名

イ 動物愛護講演会

- ・演題 「殺処分ゼロを考える」
講師：松島 美穂 先生 (ペットとの生活支援ゆとりら代表)
- ・参加者 65名

(2) 2015動物愛護フェスティバルふくおか

- ・開催日及び場所 10月10日(土) だざいふ遊園地(太宰府市)

(3) 街頭キャンペーン等への参加

街頭キャンペーン(粕屋保健福祉事務所と合同で実施)

○日時 6月30日(火) 12:30~14:30

11月24日(火) 13:30~15:30

○場所 イオンモール福岡

6 その他

○12月8日(火) 大牟田市議会議員1名視察